

SMILEのメンバー

SMILE

学生

地域貢献事業

第15回

豊橋市内の児童養護施設で、子どもたちの「学び」をサポートする。2014年から活動を続けている。当初は子どもたちの交流を主としていたが、16年から学習支援を始めた。宿題をはじめ、苦手分野の克服などを手

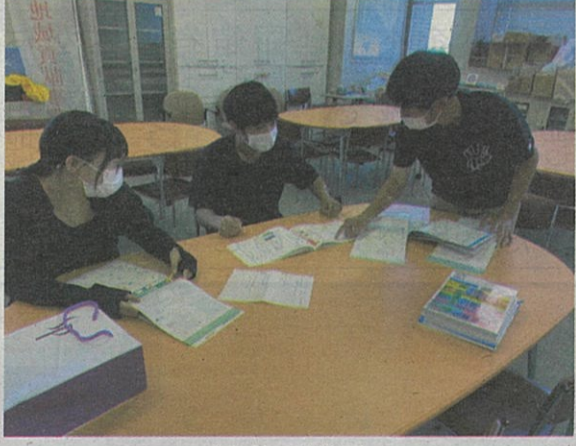
助けする。復習を中心に、学校の授業の理解を助けるための指導をしている。従来は、施設を訪ねて一緒に夕食を食べ、食後に勉強をしていたが、新型コロナウイルス禍で形が一変した。施設を訪ねることができなくなり、オンラインでの指導を行っている。ホワイトボード機能を持つアプリを使い、手元でノートのように使ってもら

児童養護施設で学習サポート

とりする。「ノートを見てあげている感じで、けっこう使いやすい」と代表の阪上晴菜さんは話す。「もちろん対面が一番いいけれど、今はできることをしたい」。子どもたちに高等教育を受ける機会を増やし、将来の選択肢を増やしたいと感じている。「子どもたちには学びたい気持ちがある。勉強することでの意識はどんどん向上する。テストの点数が上がって喜ぶ顔を見るのがうれしい」と話す。触れ合いが子どもたちに与える影響も大きい。1人の子を2、3人の学生が指導するため、子どもは「自分が特別な1人になれた」と実感できる。常に集団の一員として行動している子どもにとっで、それはとてもうれしいことだ。勉強のことだけでなく、お気に入りのものを見せてくれたり、趣味の話をしたり。子どもにとって、施設の仲間やスタッフと異なる距離感の身近な存在があることは、ときに救いにもなるだろう。

「勉強したい、勉強しようという気持ちを持つことが第一歩。達成感を大切に、できる喜び、ほめられる誇らしさを感じてほしい。『できた! わかった!』といううれしさを共有できればと思う」とメンバーは話す。勉強する時間を楽しむことを、まず知ってほしい、そんな気持ちがあるという。「自分の将来を自分で決められる、そんな自由を得る手伝いができた」。(大林恭子)

※協力・愛知大学



活動の様子